

高度情報化の活用策と危険性への対策は

【町長】情報化技術の活用を住民と協働で検討していきたい



湯田 哲 議員

問 昨年度、南会津町すべての地域で光ファイバー通信網が確立されました。先日まで大きな問題とされていた都会と地方の情報格差

が、これで解消されたことになる。接続加入者を増やし、住民生活の利便性や教育環境の向上など、高度情報化を最大限に活用した見通しが必要になってくるが、具体的な構想は。

町長 町では、地域産業活性化教育分野における格差解消、医療、福祉分野で積極的な活用を図ることによ

り、少子高齢化、過疎化など、地域課題の解決を目指しています。具体的な計画は現在検討していますが、それらを作る上で重要なのは、情報化技術の活用が見込まれる事業でいかに有効活用するか考えています。そのため、町でもユビキタス社会の基盤が整った今、

情報化技術をどのように活用できるか、住民とともに協働で検討していきたいと考えています。

問 学校や家庭で子供たちはインターネットを通し、様々なサイトに自由にアクセスし、様々な情報を知ることができるといふメリットと同時に、そのサイトや情報によっては、子どもたちの精神や心理面への影響が心配される。子どもたちの心の成長に応じた指導が

町長 中央公民館で開催しているパソコン講座に参加している方々には、インターネットの危険性などについて説明しています。今

必要では。
教育長 子どもたちはインターネットを利用する際のモラルやルール、危険性を回避する方法などを理解しないまま利用しているのではないかと思われ、被害者ばかりではなく、加害者になることもあり得ます。小・中学校では情報モラル教育としての指導を位置づけ、授業では各学年で発達段階に応じたコンピュータの操作指導や、情報活用能力の育成を図るとともに、イン

問 理想の学校像、理想の生徒像を掲げることは重要であるが、その妨げになっているものを明確に認識することも必要だと思ふ。テレビ、インターネット、ゲーム、携帯電話などが、子供たちの精神心理に与える影響を文章化するなど、生徒、保護者、先生、さらには大人たち社会全体へ明確に示すことが重要では。

教育長 子どもたちの中には、時期に応じて学校便りでの問題提起、保健だよりでの健康上の問題などを周知しています。
将来、社会に出て行く子どもたちにとって、インターネットなどの活用能力は無条件に必要であり、情報機器の利用は避けて通れませんので、学校での日常的な情報モラルの指導と家庭の取り組みをさらに周知してまいります。

「ユビキタスってなに？」
「ユビキタス(ubiquitous)」とは、「偏在する」を意味する英語で、いつでもどこでも利用者が意識しなくても情報通信技術を活用できる環境を「ユビキタスコンピューティング」や「ユビキタス社会」と言います。

ターネットを利用する際のルールとモラル、危険性などについて、基本的な指導を行っています。



館岩小学校のパソコン教室

は、これらに夢中となり、人や自然と触れ合う豊かな体験が不足したり、人とうまくコミュニケーションがとれず、問題行動を引き起こす例が見られるなど、多くの課題が提起されています。対策には、家庭と学校の連携が大切ですので、まずは保護者自身が実態を把握できるように、インターネットや携帯電話の有害情報の実態や対策などのパンフレットを配布するとともに

子どもたちの中に

子どもたちの中には、時期に応じて学校便りでの問題提起、保健だよりでの健康上の問題などを周知しています。

子どもたちにとって、インターネットなどの活用能力は無条件に必要であり、情報機器の利用は避けて通れませんので、学校での日常的な情報モラルの指導と家庭の取り組みをさらに周知してまいります。